



## 校長が考える学校経営の「一步先」を実現する



R6年度 第5号①  
津山教育事務所 12月

### AP訪問第2フェーズ

## 管理職のビジョンと戦略を支援する学校訪問～2回目を振り返って～

第2回目のAP訪問では、大変お世話になりました。1回目からの進捗状況を踏まえ、成果が出ていることや改善に向けての具体的な動きを直接聞かせていただきました。学校の設定した協議題に沿って、忌憚のない意見を出し合い有意義な時間を持つことができました。ありがとうございました。「学ばせ上手」「深い学び」等、多くの学校で話し合った協議内容を紹介します。

## ★「教え上手から学ばせ上手へ」

### 「子どもの主体性と教師の指導性」子ども主語の授業

教職研修2024.11月号で田村学氏は「自律的な学び手を育てる」の中で「一人ひとりの子どもに確かな学びを実現するためには、一人ひとりの子どもに応じた学習活動を展開することが大切になる。しかしそれは、子どもにすべてを委ねて放任することを意味するものではない。・・・資質・能力の育成に向けて、子どもが主体性を発揮するためには、教師の指導性が欠かせない。」と述べています。

各学校とも「自律的な学び手を育てる」ために、「教え上手から学ばせ上手へ」と観の転換を図り、子どもの主体性と教師の指導性の発揮について試行錯誤しながら授業実践を進めてきており、AP訪問においても、この内容について協議を行ったところが多くありました。

「目的（ゴール）を共有し、教材や学び方を選択し、既有知を生かした挑戦や再挑戦を促し、互いの考えを共有し、一般化する。」授業とは？

管理職はもちろん、授業改革推進員や研究主任を中心に具体の授業実践をもとに好事例を校内で共有し、意味づけ・価値づけしていくことが大切ではないかという声もお聞きしました。



## 校長が考える学校経営の「一步先」を実現する



R6年度 第5号②  
津山教育事務所 12月

### AP訪問第2フェーズ

## 管理職のビジョンと戦略を支援する学校訪問～2回目を振り返って～

### ★「見通しを持たせる導入について」

## 「単元構想でゴールイメージを明確に」子どもと共有

導入における「課題設定」と「見通し」が主体的な学びのポイントです。この単元で何を身に付けさせたいのかを教師が把握した上で、この単元で何を学ぶのか、なぜそれを学ぶのか、子どもと目的を共有したいものです。キーワードは「何が使えそう?」。子どもが学びに向かう入口で何に着目し、思考していくのか。既有知を生かした挑戦を促していきましょう。

### ★「教科の見方・考え方を働かせる深い学び」

## 「大事なポイントは、子どもが見つけ発言する」

「まちがえても大丈夫」という安心感のある学級風土を基盤に、自分の考えを出し合える場面を設定し、協働的な学びで考えを広げ深めていきます。自らの既有知を活用する学びのプロセスが大切です。教師の指導性としては個（グループ）の考えを見取ること。机間指導→どの子（グループ）の考えを取り上げるのか構想→全体交流。大事なポイントは子どもが見つけ発言する。子どもの深化した学びが「振り返り」に表出されることを期待したいです。

アクションプラン（AP）の作成・取組、人材育成、教育課程編成、校内人事等、学校経営で相談したいこと、お困りのことがありましたら、ご遠慮なくアドバイザー 金田まで ご連絡ください。

連絡先：津山教育事務所義務教育支援課学力向上班 TEL (0868) 24-8705